

恒例のクラス対抗ムカデ競争

広報

ひがし しらかわ

1993
平成5年

6

No.385

- 発行/東白川村
- 編集/企画財政課
- 岐阜県加茂郡東白川村神土
〒509-13 ☎05747(8)3111
- 印刷/下呂印刷株式会社

人口の動き

— 5月末住民登録人口から —

世帯数	906世帯
人口	3,434人
転入	7人
転出	5人
出生	3人
死亡	7人

先月と比較して2人減
 昨年と同月と比較して
 19人減

躍動感！133人が1つになって…

スローガンは“翔べ駆けよ！団結の感動を求めて”。

5月30日東白川中学校で体育大会が開かれました。

当日は朝から雨の交じるあいにくのコンディションでしたが、生徒の強い意志もあって決行。2種目で新記録も生まれました。

また、今回初めて大会前に生徒会ボランティア委員のみなさん6名が、村内のひとり暮らしのお年寄り54人のお宅を訪ね、大会の招待を行いました。



応援にも力が入ります

(撮影：東白川中学校 細井千暖先生)

百年の歴史を刻んだ庁舎はわずか三日で解体されました



さようなら役場庁舎

神土尋常小学校として建設されて百二年、役場庁舎として使用され八十四年。『村の正面玄関』として親しまれてきた、役場庁舎が、去る五月十四日から三日間をかけ、解体されました。

今月は、この庁舎解体の機会に、庁舎の歴史に迫ってみたいと思います。

三千円で購入

明治二十二年「町村制」実施によって、それまであった神土村、越原村、五加村が合併し、東白川村が誕生しました。それに伴って東白川村役場もスタートしたわけですが、

当時の庁舎は、合併以前の「神土村外三箇村戸長役場の庁舎を使用していたのです。その位置は、旧村誌によれば、神土村五六八番地と記されており、現在の農協ガソリンスタンド辺りでした。



神土尋常小学校当時の庁舎

建物を校舎として使用してきた神土尋常小学校が新築。当時の金額で新築費千五百三十三円三八銭。この建物が後の役場庁舎となります。

明治四十年代に入って神土尋常小学校の校地移転の気運が高まり、二年後の明治四十二年、神土平字上小林（現神土運動場）へ移転新築。

同年十二月には、引越した後の校舎へ役場庁舎が移りました。

この時、村が校舎跡地と建物を購入した金額が三千円。この年の村の決算額が一万三千二百三十五円余でした。以来、平成五年五月に解体されるまで、役場庁舎は、明治、大正、昭和、平成と四代にわたり、村の中核施設として、時代の流れと、移り変わりゆく村民の姿を悠然とそしてどっしりと眺めてきました。

新庁舎建設今後の日程

新庁舎の建設は、五月二十五日の起工式を終え、現在裏側の急傾斜地崩壊防止工事を行っています。今後の予定を簡単にご説明しましょう。

崩壊防止工事が終わる六月下旬ころから八月中旬まで基礎工事が行われ、八月下旬からはいよいよ鉄骨建方の工事が始まります。これが九月下旬まで続き、十月中旬から十一月下旬にかけ外壁と屋根工事が予定されています。

十一月の下旬から二月末までの間に内装工事が行われ、これと並行して機械、電気設備工事も行われます。

完成予定は来年三月。来年の今ごろは新しい庁舎の歴史が始まっています。

5/25 新庁舎の起工式



思い出をたずねて

紙不足で書類を裏返して使用



小池正二さん(平)
(S15~30年村職員)
(S30~54年村収入役)

私が役場へ入った昭和15年当時は、県職員も含め職員数がわずか12人。そのうち3人が当時あった農会の事務をしていましたから、役場の仕事は9人でした。終戦後、復員された方の書類を作るための紙がなく、古い書類を裏返し使ったものです。

ひとこと

囲炉裏で火をおこした思い出



樋口敬一郎さん(西洞)
(S22~53年村職員)

一番の思い出は、何といても冬場の宿直です。朝、起きるとまず囲炉裏にまきで火をたいて、湯を沸かし、炭をおこして、当時15個くらいあったと思いますが、火鉢に入れ各部所に運ばなければならなかったことを思い出します。

ひとこと

二階の議場は暑かった



村雲 忍さん(陰地)
(S46~58年まで村議会議員)
(58年から1年間議長を務める)

私が議員のころは、役場の二階が議場でした。隣の小さな部屋が控室になっていて、傍聴のある時は、その部屋が傍聴席にもなりました。とにかく夏は暑く、冬は寒かった。冬場、各議員席に小さなコタツがあったのを覚えています。

ひとこと

役場は私の青春そのもの



安江萬代子さん(加舎尾)
(S33~47年まで村職員)

中学を卒業してから14年間、役場でお世話になりました。私の入った当時、女子職員は用務員のおばさんを含めたものの4人。あのころは床なんかブカブカで…。さすがに庁舎解体の時は何かさみしい思いがして見に行けませんでした。

大きな修理は一回

ところで、よくぞここまで頑張った」と称賛にも値する木造庁舎でしたが、木造建築物の寿命を考えると、また、もともと校舎だったため、教室ごとに区切られていたこともあって、これまでには幾度となく修理を繰り返してきましたが、百年の歴史の中でいわゆる「大修理」と呼べるのはたった一回です。

その修理は、昭和三十七年十月から翌三十八年二月まで工費二百五十万円をかけ行われ、その工事の内容は、モルタルで外側を覆い、庁舎内外を白とグレーで色付けしたもので、この時から解体前の姿になりました。

「明治生まれの人は丈夫だ」といいますが、明治の建物も頑丈にできていたようです。

村を襲った二つの災禍

庁舎百年史を語るうえで欠くことができない事件は、伊勢湾台風と八・一七災害でしょう。被害総額が一億円を超えた伊勢湾台風は、昭和三十四年八月二十六日夜半から村を襲った暴風雨で最大瞬間風速四十メートル強大なもの。

村では、災害対策本部を設け、また、国からの災害救助法の発動となりました。

動区域に指定され、庁舎内は、被害のあった一〇九世帯の家庭への救援物資であふれました。

それから九年後に村を襲った八・一七災害については、この広報の六ページに少し詳しく書きましたが、被害額が三億円というまさに空前の大災害でした。



役場が対策本部に

庁舎新時代へ

この八・一七災害当時の村職員数が村長以下約三十名。現在は、庁内の職員だけで六十名を超えました。

各種事務も電算化が進み、庁舎内のOA器械も十三台を数えています。

真近かに迫っている二十一世紀に対応していくためには、どうしてもこれまでの庁舎では、収容しきれなくなってしまうそれが新庁舎建設への第一歩です。

五月十四日、この日は、朝から庁舎解体を悲しむかのように小雨交じりの天候でした。朝八時三十分から旧庁舎内で、取り壊し前の神事がしめやかに行われ、神事終了後、機械の音とともに庁舎は深い眠りにつきました。庁舎解体を一目見よう、カメラに収めようと役場前に集まって来たみなさんは約五十人。職員もこの時ばかりは、事務の手を休め、窓から最後の雄姿に見入っていました。

「長い間本当にお疲れさま、そしてありがとう。さようなら役場庁舎」。

追っかけ
取材

いもわびの館で リフォーム中

五月三十一日朝八時過ぎ、ふらさと企画のマイクロバスは、一路下親田へと向かいました。今年度からこもればの館を利用して新たに始まった「高齢者生きがいづくり事業」。五月二十日の第一回（大口、西洞地区）

を皮切りに、この日が第四回め、下親田地区の番です。

この新しい事業の内容をいち速くみなさんにお伝えするために広報では、さっそく「追っかけ取材」を試みました。

下親田地区三か所の集合場所、バスに乗車したみなさん、この日の参加は十三名です。まず、一行はこもればの館へ到着すると事務局窓口にて利用料の千円を支払い、こもればの間に今井林務商工課こもればの館担当課長から施設の説明と職員紹介などを受けました。こもればの間には、「健康チェック」用紙が備え付けてあります。この事業では、対象となるお年寄りが、七十歳以上で足腰、心身ともに元気なみなさんばかりですが、施設に来てから気分が悪くなったり、二、三日風邪がみだつたりといっ

縁側でのんびりと



高齢者生きがい事業全日程

五月三十一日の場合

- 9:00 迎へのバスに乗車（三か所）
- 8:30 こもればの館到着
- 受付
- こもればの館説明。職員紹介。館内見学（自由）。
- 入浴（自由）
- 手習室にて昼食
- 村内巡り（研修時間）
- こもればの館へハナノキ会館建設予定地へ五加バイパス
- 香良洲町ふれあいの森（久須見）へふるさとセンター・つちのこ館（見学）へライスセンターへプレカット工場へ
- 岐阜部品工場へログハウス「どりーむ」（曲坂）へ味の館へ
- 基幹農道（黒淵・大明神）へ大明神水源地へ伝承の館へ
- 朝の集合場所にて下車

「また来て下さいね」と職員のお見送り



聞いてトヤ、ぼくたちの考え

青少年主張大会

「すなおな心さわやかに育て、をテーマに六月五日、村民センターで「青少年主張大会」が開かれ、小中学生と白川高校生あわせて十名が熱弁。集まった百名を超える聴衆が青少年の主張に耳を傾けました。

それぞれの発表者は、身近な体験を交え、環境や人口など村の問題に至るまで、若者の観点で取らえ堂々と発表しました。

七月四日行われる「第五回小学生話し方大会」に参加することとなった六年生山下洋平さんの主張を紹介しましょう。

『うしなわれつつある言葉』

「もし、超能力があったら、こんなかわいそうな動物を助けてやれるのに」

ぼくの村は、山々に囲まれ、季節によって川の色もそしてにおいも変わっていきます。ウグイスの鳴き声、カエルの鳴き声

それぞれがぼくの村の宝物です。「超能力が欲しい」と思うようになったのは理由があります。

以前、テレビを見ていたら、海鳥が原油まみれになって死ん

でいる様子や海ガメがビニール袋をクラゲとまちがって食べて死んでいる様子を放送してしまいました。また、世界中に絶滅した動物が、何十種いや何百種もいるということを知りました。日本の国内にもオオカミやカワウソなど羽の美しさや毛皮の美しさから絶滅に追いこまれた動物がたくさんいます。そして、こうしている間にも絶滅しかけている生き物がたくさんいるんです。

では、東白川村は昔のままでしょうか。お母さんの子供のころの様子を聞くと「お母さんが子供のころは、家のそばに西洞川があつて、今みたいにコンクリートでかためてなかったよ。夏になるとサッコやアカネギなんかよくつれたし、アジメドジョウもたくさんとれたなあ。」となつ

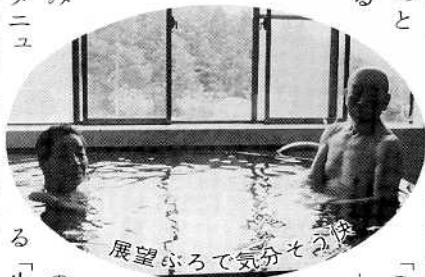
かしそうに話してくれました。ぼくも川が大好きなので、よく川に出かけますが、アジメドジョウやアカネギはあまり見かけなくなりました。その代わりにあき缶やビニール袋などのゴミや洗剤の泡などを見かけること

た人もないとは限りません。そういう場合、職員が参加者の状態を把握するために、自己申告制でこの用紙を記入してもらっています。

ひととおりの説明が終わった後、昼食までは、自由時間。施設を見てまわる人、こもればの間にテレビを見る人、話に花が咲く人などみなさんさまざまですが、一様にくつろいだ様子。十時からは入浴もできるということで、ちよつと

男湯をのぞいてみると、「眺めはええし、のんびりさせてもらってます」とこちらも好評のようです。

この間を利用して昼食準備に大忙しの厨房へ入ってみました。この日のメニューは、ご飯にみそ汁、天ぷら、ひじき、デザートには夏みかん。お仕事中のふるさと企画職員古田伸江さん、田口みどりさんのお二人に話を伺ってみると「メニューは毎回変えています。相手がお年寄りなのでなるべく和風で堅くないものを味は薄味を心掛けています」「最初多めに



「こりやごつおーやわい。たまにやこういうのもええな」とあるお年寄り。職員の細かい心配りが喜ばれているようです。

ご飯を炊いたら少し余ったので二回めから人数ギリギリで炊いたらおかわりされて足りなくなったりして足りなかつたようにはいきません」との話。職員のみなさんも相手がお年寄りだけに健康面と食事面には最も気を使うようです。

朝食は十二時から囲炉裏が二つある手習室で行われました。「こりやごつおーやわい。たまにやこういうのもええな」とあるお年寄り。職員の細かい心配りが喜ばれているようです。

午後一時から三時までの間は、この事業のメインである「生きがい活動」の間です。この間は、手芸や細工、軽スポーツやゲームなどお年寄りのみなさんの考えて頭と体を働かせる活動を行います。最初と

りこの日の活



「おみやげ」と「まじまじ」

動は村内巡りでした。コースについては前ページの日程表のとおりですが、休憩したつちのこ館では、お土産をどっさり買う姿も見られ、

この企画も好評のようでした。高齢者生きがい事業を追っかけての今回の取材。参加者からはいろいろな話を聞くこともできました。「眺めが最高です。疲れが取れるようでした」「昔を思い出した」「立派な施設を利用できるのだから、次は何か体を動かすような活動もしたい」「趣味のサークルなど仲間とおして集まれるのもっと良いのでは」…こもればの館の感想から建設的な意見までさまざまでしたが、「また来たい」という人がほとんど。この事業は順調なスタートを切ったようです。

が、年々多くなっているような気がします。残念なことですが、東白川村も例外ではないようです。だんだん自然がなくなりつつあるのではないのでしょうか。(中略) ぼくたちの暮らしは、とても豊かで物があふれています。でも豊かにすることはばかりを考えすぎてきたために、一つのことばをなくしかけているのではないかと思えます。それは「調和」ということばです。

人間の生活をより豊かに、暮らしやすくすることを考えると同時に、自然を守り育てていく努力が大切なのです。調和ということばをもっと真剣に考えて、世界中が心一つにすれば自然も少しはもどってくるでしょう。心は超能力そのものです。ぼくたち人間が心一つにすれば何でも出来ると思えます。

現在、環境を守る運動がさかに行われ、フロンガスの禁止や排気ガスの規制、ゴミの再利用など新しい活動が世界的な規模で進められています。それは今の環境を悲しむ人々が、心一つにして始めたことです。もっと早くそのことが取り上げられていたら、絶滅しな

かった動物もいるだろうし、ゴミの問題も今のようにはなっていないかったことでしょう。もし、超能力があつて無くなつたものをよみがえらせることができたならそんな素晴らしいことはない今、誰もが知っている調和ということばを大切にしてください。犠牲を出さないようにする努力が必要だと思います。ぼくは、東白川村の自然が大好きだから、人と人の調和、人と自然との調和を考えて、自分で出来る何かを見つけていきたいです。そして、いつまでも美しく自然があふれる村を作りたいと思います。

大切な心を忘れないように。

緊張の面持ちで出番を待つ発表者





8.17災害の猛威は村内各所に被害を及ぼした(神戸黒川線佐広付近)

天災は、 忘れたころに やってくる。

土砂災害防止月間

村内に約二百か所—これは、国や県、村で定めている「急傾斜地危険地域」、「土石流危険渓流」などの数です。こうした土砂災害危険地域の数、全国各地に約十六万か所あるといわれています。

六月は「土砂災害防止月間」です。梅雨の長雨による土砂災害を防ぐために過去の災害を振り返って考えてみましょう。

三二七ミリの雨

「去る、八月十七日午前十時ころから雷を伴って降り出した雨は、翌十八日の午後六時までの観測で三二七・五ミリの雨。空前の雨量を記録しました。特に十七日の午前十一時から正午までが六〇ミリの雨。十八日午前二時から三時までの間が、五三ミリの雨という記録的な集中豪雨となり、白川はもとより、支流の各河川がはん濫し、村内のいたるところに大きな被害が続出しました。これは、昭和四十三年八月十七日村を襲った未曾有の集中豪雨「八・一七災害」を伝えた広報の記事の一部です。

死者一人、負傷者一人、全壊五戸、半壊五戸、床上浸水十六戸、床下浸水百二十戸など被害総額は三億円を超えるものとなりました。

村の年平均降水量は二〇九

九ミリの雨(昭和五十六年)平成二年までの平均。岐阜地方気象台調

全国平均が一六・八ミリの雨。八・一七災害では、約二か月分の雨が二日間です。規模の大きさがわかりただけだと思います。

恐ろしい集中豪雨

この八・一七災害は、伊勢湾台風(十五号台風・昭和三十四年)の九年後。まさに「忘れたころに」というものでした。わたしたちの村は総面積の九十一パーセントが山林である地形に加え、土地の開発など社会環境の変化により、一時間に二十ミリの雨

また、降り始めからの雨量が八十ミリの雨を超えるような大雨となった場合、土砂災害の起こる危険性が非常に高いといえます。

特に、梅雨期は、停滞前線い

おしらせ

消防職員を募集します

募集します

可茂消防事務組合は、来春採用予定の消防職員を募集します。

①採用人員 十二名程度

②応募資格 ●大学卒業程度

(昭和四十四年四月二日)昭和四十七年四月一日生) ●短大、

高校卒業程度(昭和四十四年四月二日)昭和五十一年四月一日

生) いずれも通勤可能な男子

③受付期間 平成五年七月六日

④【筆記試験】 大学卒業程度

平成五年八月二十九日・高校卒業程度平成五年十月三日【体力

試験】平成五年十月五日

※詳細は、消防本部総務課 ☎

五七四(二六)二一七八まで。

「93あじさいまつり」

が開かれます

グリーンピア恵那では、来る

六月二十六日から七月十一日ま

で十六日間にわたって「93あじ

さいまつり」を開催します。

園内には、三万本のあじさい

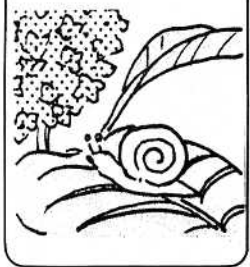
が植栽されており、雨に濡れる

姿のみならず初夏の青空にもよ

く映える、見事なものです。

まつり期間中には、あじさい

を題材とした短歌・俳句・写真



さいまつり」を開催します。

園内には、三万本のあじさい

が植栽されており、雨に濡れる

姿のみならず初夏の青空にもよ

く映える、見事なものです。

まつり期間中には、あじさい

を題材とした短歌・俳句・写真

のコンテストや写生大会、あじ

さい風呂など予定されています。

初夏の一日をグリーンピア恵

那で家族そろって過ごされては

いかがでしょう。

なお右下の三角コーナーを持

参されるとあじさいまつり期間

中次の特典があります。◎コー

ナー一枚につき①四名まで入場

無料②プレイ券二点プレゼント

③入浴半額券プレゼントです。

計量器定期検査

が行われます

法律で三年に一度義務付けさ

れている「計量器定期検査」が

実施されます。

検査対象となる計量器は営業

の取り引き、証明に使用される

わゆる梅雨前線が、日本列島をすっぱり覆っています。この前線はオホーツク海方面からの冷たい空気のかたまりと、小笠原方面からの暖かい空気のかたまりがぶつかってできるものです。また、一時間に四十以上、二十四時間で二〇〇以上の雨が降れば、集中豪雨といわれます。この雨が、局地的にそして突発的に降るところに集中豪雨の怖さがあります。

普通の雨は帯状になって降り、狭いところで百雫、広いところで五百雫ぐらいの広範囲に渡ります。これに対し、集中豪雨の場合は、直径十雫から数十雫までです。この狭い範囲で、短時間に大量の雨が降るのですから恐れられるわけです。

わたしたちに

できること

雨の恐ろしさについて少し詳しく見てきましたが、こうした自然現象は避けることはできません。まさに自然の猛威を感じるわけですが、被害となることを未然に防ぐ手だてはあります。国や県では、土砂災害を防止するために、土石流など多量の土砂流出をコントロールする砂

さまざまな土砂災害の前兆



土石流

- ・木の裂ける音やゴロゴロと石が流れる音がする。
- ・川の水が急に濁ったり、流れに流木が混ざったりする。
- ・雨が降っているのに川の水かさか急に減り始めた。

- ・地面にひび割れができた。
- ・地面の一部が陥没したり盛り上がった。
- ・池の水かさか急に変わった。
- ・井戸の水が濁った。



地すべり



がけ崩れ

- ・がけから小石などがパラパラと落ちてくる。
- ・がけに裂け目ができた。
- ・斜面の途中から突然水がわきだした。

防ダムの建設や、浜岸の浸食を防ぐための流路工、山腹の崩壊を防ぐ植樹などの山腹工や地すべり対策、がけ崩れ対策などの工事を行っています。予防手段としてこうした各種工事が行われていますが、いざという時には、私たち一人一人の心構えが大切になってきます。

ふだんから気象情報に気を配るとともに、家の周辺や地域内がどんな状況であるか、危険箇



急傾斜崩壊防止工事(役場裏)

所はどこかを確実に把握しておくことや、万一の場合に備え、どこへ避難したらよいかなどを家族で話し合う機会を持つことも必要でしょう。

また、土砂災害のそれぞれの前兆を簡単にまとめたものが左にある一覧表です。長雨の降りやすい六月、こうした前兆を発見した場合は、役場などへ連絡するとともに、避難の準備を始めるなど、被害を最少限に食い止めるようにしましょう。

図書コーナー

「プツン」



まきの・えり著
常識で考えると変な話だったが、途中で推理小説になったり、恋愛小説になったりでテンポ良く読めました。会話がすべて大阪弁だったところなど、漫才の様に頭にすっと入りました。
推薦人 (26歳 女)

かくて歴史は始まる

第二次世界大戦はどうして始まったかなど考えたこともなかったけれど、どうしても避けられない理由があったことがわかり、歴史とは表面だけでは、わからないものだと思った。
推薦人 (73歳 女)

渡部 昇一著



すべてのほかりです。

【検査日時】
●農協越原事業所 七月八日 午後一時～三時まで。
●消防第一分団詰所 七月九日 午前十時～正午まで。
●五加センター 七月九日 午後一時～三時まで。

※検査手数料、その他詳しい問い合わせは、役場林務商工課(有線二一五五)まで。

「行政資料室」を
ご利用下さい

県では、各種行政資料を広く県民の皆さんにご利用いただくため、県庁八階(統計調査課内)に行政資料室を開設しています。蔵書数は約一万四千冊。国・県・市町村などが発行した統計調査の結果報告書、各種行政計画書などを取りそろえています。各種資料は閲覧のほか、必要に応じてコピー(一枚十円)もできます。また、電話による照会、相談もお受けしますので、お気軽にご利用下さい。

【開室時間】月～金曜日午前九時～午後四時半(祝祭日を除く)
【照会先】県庁統計調査課統計情報係 ☎五八二(七二) 一一一(内線)二三三一

開幕

軟式野球リーグスタート スポーツシーズン到来



古田晃裕さん(飛龍チーム)の宣誓

五月二十五日、東白川村軟式野球リーグ戦が開幕しました。今年のリグ戦、十チームが参加し、五月から十月までの六か月間に二節総当たり九十試合の予定で行われます。

総合運動場での開会式には、一日の仕事を終えた選手の方々が、色とりどりのユニホーム姿でさっそくと登場。熱戦前の和やかなひとときでした。

親子

身をていし、子どもを守る 母の愛



カメラを持って近づいても動きません

久須見地内の村有林で下野の今井徳美さんが枝打ち作業をしていたときのこと。打った枝の落ちた辺りを見てみると何かモソモソ動いている様子。驚いた今井さん、すぐに枝を取り除くとヤマドリの巣があり、母鳥が卵をあたためている真っ最中。ふだんはすばしいヤマドリも子を守るためには命がけ。その場から放れなかったそうです。

総会

東京東白川クラブ五代目 会長に安江さん



就任のあいさつを行う安江新会長

東京東白川クラブの総会が、六月六日上野で行われました。今年の総会は、来賓として村からの出席のほか中京村人会からも二名が招かれ、例年にもまして盛大な会となりました。

席上、役員改選により四年間会長職を務められた田口友郎さんに代わり、陰地出身の安江富士夫さんが新会長に就任。同会の新時代の幕開けとなりました。

参加

伊勢湾の海に 響いた桧茶の音



桧茶太鼓は人気の的

交流協定を結ぶ三重県香良洲町で六月六日「ふれあいのかおり93」と題したイベントが行われ、村からも村関係者、ふるさと企画のバザー、桧茶太鼓など総勢二十二人が参加しました。

ふるさと企画のバザーでは、朴葉ずしが大ヒット。商品の説明に職員も四苦八苦でした。また香良洲町に初登場の桧茶太鼓も大評判。「来年もぜひ来て下さい」とのお誘いを受けるなど新たな交流も始まったようです。

戸籍の窓 敬称略

誕生おめでとうございます

(神付) 今井 輝久 美和 美輝 (長女)

(大明神) 安江 達哉 弘子 園美 (三女)

(日向) 安江 健 昌志 志貴 (長女)

いつまでもおしあわせに

(馬淵) 祐弘 (栃山)

(日下部) 美保 (加子母村)

(河村) 真治 (陰地)

(安江) みのり (黒淵)

おくりやみ申し上げます

田口 正直 56歳 (中谷)

安江 亘 65歳 (大明神)

安江 徳市 84歳 (中通)

有田 けい 90歳 (上親田)

栗本 すゑ 91歳 (柏本)

安江 いと 89歳 (黒淵)

長谷川 乙女 85歳 (大明神)

善意の寄付 敬称略

【社会福祉施設整備基金指

定寄付金】

現金一万円 匿名

現金五万円 有田秋夫(上親田)

現金五万円 安江厚(黒淵)

【社会福祉協議会へ】

現金三万円 安江淑久(大明神)

躍進

加茂郡体育大会 新生チーム大健闘!

六月六日、第三十七回加茂郡体育大会が、川辺町と七宗町を会場に開かれ、村から七種目に十チーム、百三十人の選手団が参加し、初夏の一日熱い戦いを繰り広げました。

今大会唯一の優勝を飾ったのは、バスケットボール一般男子チーム。一回戦には、昨年決勝戦で涙を飲んだ坂祝町と対戦。熱戦の末、見事雪辱を果たしての優勝となりました。



【準優勝】バレーボール家庭婦人部
【三位】バレーボール一般男子・剣道一般男子【四位】クレール射撃【個人】剣道女子の部【優勝】沢木いずみさん（陰地）

とところで、今大会に初参加したチームがあります。ヤマカレディース。一般女子バスケットボールチームです。「バスケットが大好きだから」と話してくれたのは、同チームの中島奈美さん（平）。昨年十一月こうした気持ちの仲間たち十五人が集まってチームを結成。スポンサー（分酒店）もできるなど、ちょっとしたフィーバーぶりでした。



ディフェンスもばっちりです(東白川：白)

歴史

二二年余の月日を費やし 「平和への礎」刊行

「二度と同じ過ちを繰り返さないためにも史実を後世に残したい」。平成二年から東白川村戦記編纂委員会（委員長今井啓市さん）の皆さんが取り組んできた戦記「平和への礎」がこの



平和への願いを込めて刊行

ほど刊行されました。

終戦後、半世紀を迎えようとしている現在、戦争のあったことすら忘れられようとしています。同書は、村出身の三百余名の戦没者をはじめ、戦地から帰還されたみなさんの記録、当時の悲惨さを物語る、遺書や遺品の写真、思い出などをつづったもので三百五十五ページにわたっています。

平和を願って刊行された同書は一部五千円で販売されます。※詳しい内容および申し込みは、戦記編纂委員会または、地区委員までお尋ね下さい。

工事入札の結果

- ①は入札期日②は落札金額及び落札業者
- ▼夏秋なす選果施設建設工事
①五月十一日②二千五百五十四万四千円、(株)加地工務店
 - ▼百年道路舗装工事
①五月十一日②一千九百五十五

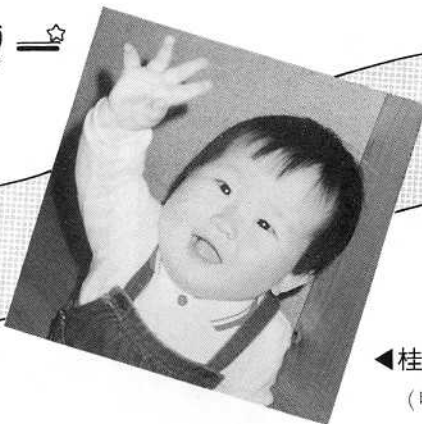
- 千円、丸久産業(株)
- ▼百年道路法面工事
①五月十一日②五百十五万円、東興建設(株)
- ▼柄谷・中峠法面工事
①五月十一日②五百七十六万八千円、丸久産業(株)
- ▼ハナノキ会館建設工事
【建築工事】

- ①五月二十八日②三億三千九百九十万円、曙開発(株)美濃加茂支店
- 【電気設備工事】
①五月二十八日②八千八百五十八万円、石原電機工業(株)
- 【機械設備工事】
①五月二十八日②九千六百八十二万円、大和工業(株)

現金五万円 安江俊郎（中通）
現金五千円 匿名

- 【東白川小学校へ】雑布五十枚 婦人会五加支部 竹ぼうき十本 老人クラブ寿会
- ▼耕うん機一台 今井源（大沢）
- ▼岩波世界児童文学集三十巻 安江正二（名古屋市）
- 【東白川中学校へ】雑布四十七枚 婦人会神土支部 竹ぼうき十本 老人クラブ寿会
- 【神土婦人会へ】雑布五十枚 婦人会神土支部 竹ぼうき二十本 老人クラブ寿会
- 【越原保育園へ】造花カーネーション四十五個 東白川村母子寡婦福祉会 竹ぼうき十本 老人クラブ寿会
- 【五加保育園へ】造花カーネーション三十個 東白川村母子寡婦福祉会

このコーナーの子ど
もたちみな同い年。
10年後、20年後「広
報」をみればホラ!
1歳のあの子の顔が...



◀桂川さおりちゃん
(明義さん・ちとせさん二女=日向)

満
1歳

ふれあい広場

新婚さん♡

■ワン・ショット■

皇太子殿下ご成婚の三日後に結婚式。今月は、陰地の安江真治さん、みのりさんご夫妻を紹介しま



安江真治さん・みのりさん

この写真は引きのばしてお二人に進呈します。

「元氣な子なら何人でも」と子ども好きで明るいカッブルの誕生日です。

二人の出会い、明快です。同じ職場（JAみのかも東白川支店）にお勤めのいわゆる「職場内恋愛」だからです。ご主人が東京からUターンされたのは昨年四月、奥さんもその二か月後にふるさとへ帰ってきて、昨年九月からは同じ指導課で机を並べました。運命の赤い糸をお互いに引つ張ったのかもしれません。「はじめは、無口でとつきにくそうだったけど話してみたらすごく優しく」とは奥さんの言葉。ちなみにおつきあいも九月からだとか。大の阪神ファンを自称するご主人の悩みは、奥さんが巨人ファンであること。でも二人ともスポーツは大好きのようです。

ふるさとの生活史

14

▽備中鉄とトラクター

備中鉄（びっちゅうくわ）は普通の鉄と違って、三本（あるいは四、五本）の鉄の棒の先を尖らせたようなもので、今でも農家では道具として使っており、芋を掘るときには便利です。昔は田拵（たぢょう）に良く使われました。特に湿気の多い水田を掘り起すにはこれしかありません。

それにしても全ての水田を人力で掘り返すのはたいへんです。そこで畜力を利用することが考えられ、そのために小型でおとなしくて、力のある木曾馬が使われました。明治三十二年には村内に四百三十七頭の農耕馬がいたと記録されています。

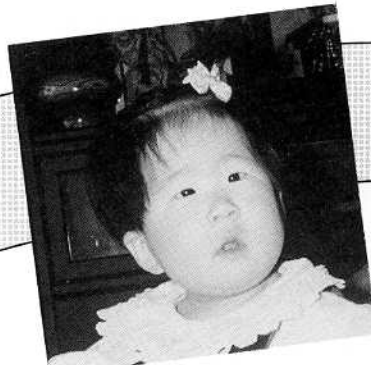
大正八年になって一頭の牛が登場しました。牛は馬よりさらにおとなしく、持久力があり、飼育し易いことから、農耕の役目はしだいに牛に移り、昭和に入ると牛の全盛期を迎えます。

昭和二十五年には三百五十三頭の役牛が犁を引っぱって田を起し、まんがという道具を引っぱって泥をこね、田拵をししました。

昭和三十年代は機械化の時代でした。動力耕耘機の普及にしがたがって牛は農耕を離れ、肉牛として飼育されるようになりました。昭和五十年ころの耕耘機の台数が四百一台、その年にトラクターが二台。そして昭和六十三年に八十八台でピークを迎えたトラクターは、今は大型化を迎えて七十七台とその数はむしろ減少しています。

備中鉄からトラクターまで、田拵の道具の歴史をたどると、農業の変転が色濃く浮かんでくるようです。今は、じゃがいもを掘る梅雨あけまで備中鉄はその出番を静かに待っています。





▲安江沙知代ちゃん

(良浩さん・こず枝さん長女—下親田)



スター誕生

中通の高井武さん宅で飼われているサラブレッドの美春号が、去る五月一日元気な女の子を出産。その名も「タケノアイリス」。父親は一昨年から同宅で飼われているリードセイカン号。生まれてから三十分後には元気に立ち上がったそうです。



四月二十二日付、朝日新聞の「天声人語」に論説委員白井健策氏の書かれた役場庁舎備品の競売についてのコラムが掲載され、全国各地の読者から心温まるお便りが村へ届きました。

京都からの便りを紹介しましょう。

『嬉しい話』

今朝の朝日新聞の天声人語は、何と心の温かくなるお話しでした。胸の奥がジーンとしてきました。そして

て早速切り抜きました。

岐阜県の東白川村の新役場を造るにあたっての旧役場の取り壊しに見せた村の人々の反応。それにしても古い役場のものを使えるだけ使おうという資源愛護の心に加えて馴れ親しんだ役場の物品にたいする愛着の心、それから今まで庁舎で使っていた様々な品を公開入札に付すという素晴らしいアイデア、今まで聞いたことも無かったこの村が、行ってみたい程好きになりました。

三人で一日がかりで外したドアがたった五百円だったとは眼

の底がジーンとしそうでした。村長さんの机が七千円、いずれも本心に心の温まるお話しでした。火鉢を買取った方はすぐに村に文化財として寄贈された。何とも嬉しいお話しばかり聞かせていただきました。

村中が仲良い心の人々で平和な良い村だろうと心から嬉しくなりました。愛郷心の厚い人々の東白川村は新庁舎と共にきつといつまでも栄えることでしょう。お祈りいたします。

見も知らぬ村の人らの優しさが心打つなり一人の吾の

吉岡喜美

お話を を きかせて ください

独居老人訪ねある記

かりイモを六十四株も作ったんですよ。

子どものころから運動が大好きだったこともあり、今一番の楽しみは、ゲートボールです。ゲートボール歴が十一年にな

るといって大ベテランで、練習のある水曜と土曜はふだんより早く目が覚めてしまうとか。

「私は、ゲートボールを一番最初に思いついた人に本当に感謝しているんです。あの競技は、手足はもちろん使いますし、頭も使う。しかも私らのような腰の曲がった者でもできる。練習に行けばみんなの顔が見れて、ワイワイやりながらできるので本当に練習日待ち遠しいくらいですよ」と身ぶり手ぶりを交えながらのゲートボール談議。どうやらかなさんの元気の素はゲートボールにあるようです。



村雲かなさん

「一人つきりになってしまつて、三か月の間は、体じゅうから力が抜けてしまったようで本当にしょんぼりしてしまいました。自分自身で立ち直らな、仕方がないと思ひ直したら、また力が湧いてきました。今はその日、その日を大切にしながら暮らしています」と話してくれたのは、中通の村雲かなさん。かなさんは、大正三年のお生まれでこの七月に七十九歳になりました。一昨年ご主人を亡くされてから一人暮らしが始まりました。「生涯、百姓でやってきたで百姓のことしか知らんようなことですよ」と話すかなさんは、今でもいろいろな野菜を畑で作っています。広報がお訪ねした日もちようどお茶摘み。額にたっぷり汗をかきながら、「都会に出ておる子どもたちに野菜を送ることが楽しみでねえ。去年なん

わたしの作品

四年 村雲綾佳 光



▲「ふしぎなくつ」を読んで
東白川小学校3年生
田口雄一さん(平)

▲東白川小学校4年生
村雲綾佳さん(中通)



▲「どんぐりとやまねこ」を読んで
東白川小学校4年生 安江理菜さん(日向)



▲「心に残った風景」
東白川小学校5年生
仲澤愛さん(曲坂)



▲「おとうさん」
越原保育園



▲「おとうさん」
越原保育園
さんとかなちゃん
(大明神)

広報文芸

● 短歌

荒波をけ立てて進む遊覧船紀の松島に嬌声ひびく 安江 幸

● 武蔵野のみささぎ清し畏みて双手合せつつ身の引きしまる 安江 澄

● 望月は桜の花にとどまりて合掌する吾を小さく照らす 今井 かな

くれなるに桜ふふめる枝々を映して春の小川明るむ 安江 龍玉

● 雨ほしき日照り続きの裏畑は鍬振る度に土煙立つ 安江 節子

● 早春の陽ざしを受けて池の鯉きらりと白き背をひるがえす 三戸 きり

● 阿佐ヶ谷に子は移るといふ白秋もかの日に住みし街ぞと思ふ 小池 弘子

やわらかき日差しを浴びてアイガモは卵数個を水中で産めり 安江 順子

山肌はけずられ道と変りゆき国道の札吾村に立つ 安江とくよ

ぬくき昼肌さす夕を繰り返し鼻水せわし齡に勝てず 安江 守平

歩くには痛まぬ足も座るには一苦労する年々オオタ 安江すみよ

山々の木深き緑その中に辛夷の花は白々と咲く 早瀬 久子

毛筆の穂先にも似て木の木の新芽つんと空さしてのぶ 今井 米子

啓蟄に目醒めし蛇は日溜りてまたく動かず切れ繩に似て 苅田 清美

久々に友と寛ろく郡上の宿演芸もよそに語らひつきず 伊藤 美枝

ことごとくに問ひつ返せせばわが妻も声荒くなり年重ねつる 伊藤 重雄

あなたの作品をお寄せくださいー初心者、とくに若い人たちの投稿を歓迎します●偶数月の二十日までに神戸伊藤重雄宛に出して下さい。



五十歳代の我々が酒を飲むと最近なぜか昔

話が多い。特にこのころは歳なのか郷愁が強くなったのか、くどくど多い多くなった。▼それも俺が子供のころこんな遊びをしたとか、いたずらをしたとか、叱られたとかたわいのない話ばかりである。それが何時間も延々と続く。▼学校への行き帰り、いたるところにあった自然や、野良仕事や道で出会った村人たちとの交流が、今自分自身にとつていろいろな知恵となっていることに気づいたのだろうか。そして、最後は今の子供たちは可愛想だと結びになる。▼決められた舗装道路の通学、野良仕事の人はエンジンの音で話すこともできない。まして行きかう人たちは自動車であつという間。だから可愛想という思いが一つ、それに代わる体験やそれらに伴う教育方法が見つからないのが一つ。▼今度飲むときは心して、今自分たちが子供たちに、何をやってつたらの話をしたいと思っている。